

校内研究・研修

(1) 研究主題

| 教科等 | 研究主題 | 指定区分・指定内容 |
|-----|----------------------------|-----------|
| 道徳 | 考え、議論する道徳へ ～道徳の教科化に向けて～ | |

(2) 主題設定の理由

本校の子どもたちは、明るく、素直で心優しい子が多い。与えられた課題にも真面目に取り組む、前向きな気持ちで過ごせる。一方、決められた規則がしっかりと守れない、言われたことはやれるが自分から何かに取り組もうとする自主性に乏しいなど、課題となる部分も多くある。

そこで、昨年度までの道徳教育の取組では、地域を生かしたふるさと学習を中心にして、浅井氏三代の教え、「智（進んで学ぶ子） 仁（思いやりのある子） 勇（たくましい子）」の心を育てたいと考え、実践してきた。道徳的実践力を育てる場としての体験的学習を重視し、道徳の時間にはその価値の補充、深化、統合を図るため、効果的な授業を行い、教員も育活動全体として道徳の場とらえながら、その中に、郷土に密接に関わる体験や教材を意味あるものとして取り入れていき、それらの相互作用によって、真の道徳的実践力をもった子どもが育つであろうと考え実践してきた。

そこで今年度は、積み上げてきた道徳教育をさらに、発展、充実させていくために、今年までの実践に加えて、道徳教育の要となる「道徳の時間」の指導の充実を図りたいと考え、平成30年度から始まる「特別の教科 道徳科」を見据えて、これからの道徳の時間の指導において、何がどう変わるのかを考えていく。小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編には「発達の段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童が自分自身の問題として捉え、向き合う「考える道徳」「議論する道徳」へと変換を図るものである。」とある。新しい「特別の教科 道徳」の目標を達成すべく、「考え、議論する道徳」の時間にするためにどのような授業展開、どのような発問、どのような授業形態にすれば良いのかを、実践を積み重ねながら考えていきたい。

研究の仮説

子どもたちの心が動く授業展開と発問、授業形態、板書の工夫などを行い、子どもたちが主体的に考え、議論する道徳を行えば、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度が育つだろう。

(3) 研究の内容と方法

○研究授業

- ・全学年の授業研究を通して検証を進める。

○学びの足跡を残す

- ・子ども自身の振り返り（評価につなげる）教室掲示（道徳の足跡）

○年間指導計画の見直し

- ・年間指導計画 全体計画別葉 重点目標の見直しを行い、地域教材や体験活動他教科との関わりを考え、作成する。

○体験的活動と道徳の時間を関係づける

- ・それぞれの道徳的価値の関係を意識化し、道徳的実践力の育成に努める。

○環境整備

- ・教室や校内掲示板を活用し、心を育て、実践につながる掲示物を掲示する。

○地域とのつながり

- ・ゲストティーチャー、行事への参加等様々な場面で、地域の方々に参加していただく。また、児童が地域に関わること（小谷城戦国まつりへの参加、こどもガイド隊の結成）なども積極的に行っていく。

○外部への発信 道徳通信等で、学校の取組を知らせていく。

○道徳教育を支える、その他の取組

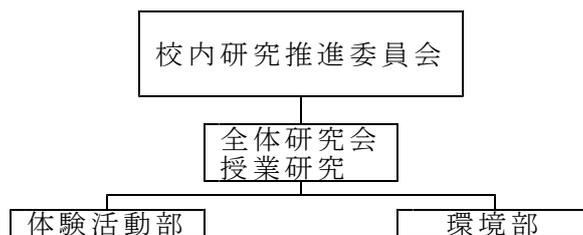
- ・読書活動をさらに推進し、幅広い知識や豊かな心情の醸成をはかる。
- ・好ましい学級風土づくりとして、何でも話せ、認められる支援・容認の学級、どの子ども居場所のある学級をつくる。

(4) 研究・研修計画

| 月 | 校内研究 | 職員研修 |
|---|----------------|----------------|
| 4 | ・組織作り（研究推進委員会） | ・サービス・危機管理対応研修 |

| | | |
|----|------------------------------------|---|
| | ・研究推進委員会 研究主題の設定、研究内容の検討 | ・学校教育目標の具体化、教育課程 ・特別支援教育 ・いじめ・体罰防止研修 |
| 5 | ・研修計画の作成 | ・不祥事防止研修・小谷っ子を語る会 |
| 6 | ・事前研究会 * 2部会を ・全体授業研 _____ 随時開く | ・いじめ・体罰防止研修 ・情報モラル研修 ・心肺蘇生法 |
| 7 | ・事前研究会 ・全体授業研 | ・教育相談研修 |
| 8 | ・道徳の教科化に向けての研修会 | ・夏季校内研 _____ ・市教育研究大会 ・小谷っ子を語る会・児童虐待対応研修 ・不祥事防止研修 ・いじめ・体罰防止研修 |
| 9 | ・事前研究会 | |
| 10 | ・全体授業研 ・事前研究会 ・全体授業研 | ・小谷っ子を語る会 ・就学指導、特別支援教育 ・いじめ・体罰防止研修 |
| 11 | ・事前研究会 ・全体授業研 (2授業) | ・教育相談研修 ・不祥事防止研修 |
| 12 | ・全体授業研 | ・人権教育研修 |
| 1 | ・各授業実践の研究のまとめ | ・心身の健康管理について ・不祥事防止研修 ・いじめ・体罰防止研修 |
| 2 | ・研究の評価とまとめ ・次年度の校内研究について | ・小谷っ子を語る会・不審者対応研修 |
| 3 | | ・教育実践の反省と次年度の課題 |

(5) 校内研究体制の概要



(6) 過去5か年間の研究主題

- ①平成24年度 ・基礎基本を習得し、自分の考えを持ち、お互いの考えを交流できる子どもの育成 一単元を貫く言語活動を通して一
- ②平成25年度 ・基礎基本を習得し、自分の考えを持ち、お互いの考えを交流できる子どもの育成 一単元を貫く言語活動を通して一
- ③平成26年度 ・基礎基本を習得し、自分の考えを持ち、お互いの考えを交流できる子どもの育成 一単元を貫く言語活動を通して一
- ④平成27年度 ・人や地域とつながりながら、よりよく生きようとするたくましい湖北の子を育てる
～ふるさと学習を中心に智仁勇の心を育てる～
(文部科学省・滋賀県教育委員会指定 道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業)
- ⑤平成28年度 ・人や地域とつながりながら、よりよく生きようとするたくましい湖北の子を育てる
～ふるさと学習を中心に智仁勇の心を育てる～
(文部科学省・滋賀県教育委員会指定 道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業)

校内研究会資料

1, 研究会・研究授業の持ち方

- ・ 授業研究を、全学級1回ずつ行う。全体授業研では、事前・事後の研究会を開く。必要に応じ、外部から講師の招聘を行う。
 - ・ 事前の研究会は早い時期に全員で行い、研究授業・事後研究会には全職員が参観・参加する。
 - ・ 教科主任会や外部からの要請などで研究授業をしなければならないときは、校内研究会とは原則として兼ねないこととする。教科(道徳)等のねらいに違いもあり、同じ土俵で話し合うことが不向きと考えるからである。
 - ・ 特別支援学級の授業は特別支援教育の職員研修も兼ねて、なかよしい組ろ組が同じ日に行い、全員が参観する。
- ア、役割分担
- ・ 授業記録、事後研究会記録を学年部毎に交代で分担する。
 - ・ 写真記録・保存を教頭がする。
 - ・ 講師の招聘があれば、手配は校長・教頭で行う。

イ、研究会の進め方

- ① 授業者から
- ② 事前研究会からの補足
- ③ 手短な感想等から研究会の論点や課題を明確にする
- ④ 論点・課題
- ⑤ 学校長(講師)より指導を仰ぐ

2, 校内研究体制について

- ・ 全体研究会 授業研究 (全員)
授業研究(事前研究会、授業後の研究会については全員が参加して、研究を深める)
- ・ 体験活動部
様々な体験活動と道徳教育の関連を考え、具現化していく
城まつりや運動会のめあての掲示など
- ・ 環境部
校内の道徳コーナーの設置
地域への道徳通信の発行